

平成15年度長期研修生研究報告書

所属校 県立村山農業高等学校
指導者 西村仁美
研修生氏名 山口恵子

目次

1. 研究主題	P. 1
2. 主題設定の理由	P. 1
3. 研究の仮説	P. 2
4. 研究内容与方法	P. 2
5. 研究計画	P. 3
6. 研究のまとめ	
(1) 文献研究	P. 4
ア. 進路指導とは何か	
イ. 進路指導の6分野	
ウ. 構成的グループエンカウンターとは何か	
(2) 実技研修	P. 7
(3) 調査研究	P. 8
ア. 県内公立高校5校進路指導主事への聞き取り調査のまとめ	
イ. 県内公立高校5校2年生へのアンケート調査結果による進路意識の分析と考察	
ウ. 所属学年生徒の実態と所属学年教師の予想する実態の比較と考察	
(4) 実践研究（研究授業）	P. 17
ア. 授業者としての反省から	
イ. 学習カードに記載されたキャリア・アンカーの分析から	
ウ. 研究授業後のアンケートの結果と考察	
7. 今後の課題	P. 21
8. 主な参考文献一覧	P. 22
9. 終わりに	P. 22

1. 研究主題

教育相談の考えや技法を取り入れた進路指導の研究

～ 構成的グループエンカウンターによるキャリア・アンカー発見～

2. 主題設定の理由

平成 12 年に村山農業高等学校の生徒保健委員会が行った調査によれば、生徒のストレスの原因として「進路」「勉強」等が上位に挙げられた。特に進路に関しては、近い将来決断をせまられる重大な問題として、不安を感じている様子が伺える。

しかし進路の悩みから生じるストレスは、支援や指導の仕方によっては生徒の生活全般を向上させていく強い動機に変わるものでもある。また、進路の悩みを解決させることで、他のストレスである「勉強」等に解決の糸口が見つかる可能性も大いにあると考えられる。そこで本校生がよりよく生きるための進路指導について様々な面から実践、研究したいと考えた。

高等学校における進路指導の最終的な指導目的は進路の意志決定であろうが、各自の進路選択に大きな影響を与える要因として、シェイン (Schein, E.H. 1975) はキャリア・アンカーを挙げている。キャリアは「進路」、アンカーは「錨」であり、シェインはキャリア・アンカーを「個人が選択を迫られたとき、その人がもっとも放棄したくない欲求、価値観、能力などのことで、その人の自己像の中心をしめすもの」と定義している。

所属校の生徒が抱いている不安は、眼前の進路選択についての適応性や実現性への自信のなさによるものと思われるが、自分のキャリア・アンカーは何であるかを考えさせる進路学習を積み上げていけば、自分の生き方やあり方を見つめ直し、卒業後の職業選択において自己実現を図ることができるのではないかと思われる。よって、キャリア・アンカーについて考えるための進路指導について研究したいと考えた。

そして、そのような支援には、教育相談的な考えや技法を活かしていく必要を強く感じる。なぜなら自分のキャリア・アンカーについて考えるためには、学習活動や相談活動を行う中で自分の内面を深く見つめながら、他者との関わりの中で自分を成長させ問題解決していく力を身につけさせることが不可欠だからである。

教育相談の考えを取り入れた活動や指導法は数多く研究されているが、先行研究では他者とのかかわりを通して自分の内面に問う力を育成する有効な手段として、構成的グループエンカウンター (以下 SGE) がしばしば取り上げられ成果が検証されている。よって所属学年生徒にはどのような形で SGE を活かせばキャリア・アンカーの発見につながる効果があるのかについて研究し、その有効性を検証し、研修後の実践に生かしていきたいと考え、本主題を設定した。

3 . 研究の仮説

構成的グループエンカウンターを考えや技法を生かした進路指導を行えば、
生徒は生き方あり方を見つめなおし、
自分のキャリア・アンカーを見つけようとするだろう。

4 . 研究内容と方法

1 . 文献研究

- ・ 進路指導の理論や実践方法についての理解
- ・ 構成的グループエンカウンター（S G E）の理論や実践方法についての理解
- ・ サイコエジュケーション、ソーシャルスキルトレーニング、カウンセリング等、教育相談の理論や実践方法についての理解

2 . 実技研修（所内講座・所外研修会への参加等）

- ・ S G E、教育相談実技等の演習
- ・ 各分野の専門的な研修会等への参加

3 . 調査研究

- ・ 所属校と他校の進路指導に関する資料の収集、分析
- ・ 所属校と他校への聞き取り調査およびアンケート実施

4 . 実践研究

- ・ 学習指導案の原案作成、所属校での実践や試行、考察、修正
- ・ 進路指導年間計画に基づいた活動アイデア集作成

5 . 研究計画

	研修予定	研究内容
5 月	↓ (計画立案) 26 計画書提出	文献研究 (S G E、教育相談等の理論の理解) 実技研修 (所内・外での研修)
6 月	2 所長ヒアリング ↓ (中間報告書作成)	調査研究 (所属校、他校の資料収集、アンケート調査、聞き取り調査)
7 月	10・11 授業実践 15 中間報告書提出 25 中間報告会	実践研究 教育相談の 考えや技法を生かした授業や 活動案集の原案作成 授業の実践
8 月		結果の考察、分析、修正
9 月		活動案集のまとめ
10 月	15 研究発表会 ↓ (報告書等作成) 30 修了式	活動案集完成

6. 研究のまとめ

(1) 文献研究

ア. 進路指導とは何か

進路指導は次のように捉えられている。

文 部 科 学 省	「進路指導は『生徒の個人資料、進路情報、啓発的体験および相談を通して、生徒が自ら将来の進路の選択、計画をし、就職または進学して、さらに <u>その後の生活によりよく適応し、進歩する能力を伸長するように教師が組織的・継続的に指導・援助する過程である。』</u> 」	文部省「学校における教育相談の考え方・進め方 中学校・高等学校編」1990
木 村 周	「学校進路指導の革新が強く求められている。偏差値によるいわゆるよい学校への進学指導一辺倒から『 <u>生き方の指導、すなわち生涯を通じたキャリア形成</u> 』のための援助と指導への転換である。」	木村 周「キャリア・カウンセリング」138頁 1998 (社会法人雇用問題研究会)
國 分 康 孝	「進路指導とは学校や職の斡旋ではない。 <u>これからの人生をどう歩むかという自問自答を援助する人生学のことである。</u> 」 「 <u>将来へ続く時間の流れのなかでいまを読みとることが大事だ</u> といたいのである。これを実践するのが進路指導である。」	國分康孝編集代表「進路指導と育てるカウンセリング」8-9頁 1988(図書文化社)
吉 田 辰 夫	「これからの進路指導の視点は、目的意識や生きがいを持って生活できる青少年の育成、進路に対する自己効力感の育成、進路へのビジョンを高める進路情報資料の収集と活用、体験学習の奨励、将来の生活設計、職業・産業の世界の理解、主体的な進路選択力の育成、社会的職業的自己実現を目指す指導、などをあげることができるとともに積極的な取り組みが必要である。」	吉田 辰夫「21世紀の進路指導事典」3頁 2001 (ブレーン出版)

以上を踏まえて、本研究では進路指導を次のように捉えた。

「進路指導とは生徒一人一人の生き方あり方に関わる指導である。最終的な指導目的は進路の意志決定であるが、決定させるにあたり、自己理解の促進や、自分のアイデンティティについて自分自身に問いただす場面を持たせることが不可欠である。また、進路を選択させるうえで、個人の興味関心は尊重されなければならない。これからの進路指導では、卒業後の本人の成長や適応を考慮した進路計画を立てさせることと、実社会で生き抜くためのスキルの指導が必要である。」

イ．学校進路指導の6分野

学校における進路指導には、下の6分野がしばしば引用されている。

自己理解	進路、職業等に関して「自分自身」を理解できるよう援助すること
職業理解	進路、職業、キャリアルートの種類と内容を理解できるよう援助すること。
啓発的体験	選択や意志決定の前に、やらせてみること。
カウンセリング	必要なカウンセリングを行い、選択や意志決定を行うことを援助すること。
方策の施行	意志決定したことを実行するよう援助すること。意志決定もここに含まれる。
職場適応	それまでのガイダンスとカウンセリングを評価し、適応の援助を行うこと。「卒業生追指導」などがこれにあたる。

(木村 周「キャリアカウンセリング - 理論と実際 その今日的意義 - 」 1997 社団法人雇用問題研究会 71頁)

しかし研究者によって6分野を表す表現が微妙に異なる場合もあるし、学校によっては実態に合わせて6分野を独自に組み替えて分類している。本研究を始めるにあたって、所属学年の生徒の実態に即した適切な分類について、次のように考えてみた。

研究実践の対象はまだ高校2年生ということもあり、「職場適応」に関する授業を現段階で行うことは考えられない。よってこの項目は削除する。

「方策の施行」について現段階で指導すべき焦点は、「意志決定後の援助」ではなく「意志決定」そのものと考えられる。よってこの項目の名称を「意志決定」とする。

「カウンセリング」については通常のカウンセリングとキャリア・カウンセリングの意味合いが異なること、また本研究では「進路」という言葉を前面に打ち出していることから、この項目を「進路相談」とする。

意志決定以前の「自己理解」「職業理解」「啓発的体験」「進路相談」の段階ごとに、自分が進みたい進路について段階的で具体的な見通しを生徒に持たせていく必要があると考える。この具体的な見通しを持たせる活動や支援を総合して「進路計画」とする。

上記 ～ により、本研究における進路指導を次の6分野とする。

自己理解	職業理解	啓発的体験	進路相談	進路計画	意志決定
進路、職業等に関して「自分自身」を理解できるよう援助すること	進路、職業、キャリアルートの種類と内容を理解するよう援助すること。情報収集もここに含まれる。	選択や意志決定の前に、やらせてみること。 本校では2年次の「産業現場実習」等がこれにあたる。	必要なカウンセリングを行い、選択や意志決定を行うことを援助すること。	自分が進みたい進路について、段階的で具体的な見通しを持てるよう援助すること。	「自己理解」「職業理解」「啓発的経験」「進路相談」「進路計画」の学習を通して意志を決定すること。

ウ．構成的グループエンカウンター（SGE）とは何か

（1）定義

「ホンネとホンネの交流により、ふれあいの人間関係づくりをして、自己発見を深めるグループ体験のこと。そのためにリーダーの指示によるエクササイズを中心に進めるのが構成的グループエンカウンターである。」（片野智治編「エンカウンターで進路指導が変わる」 2001 [図書文化社]より）

（2）目的

- ・エクササイズとシェアリングによって、集団内にリレーション（心と心のふれあい）をつくる。
- ・個々が自己発見をする。

（3）具体例 【私は面接官】（片野智治編集代表「エンカウンターで進路指導が変わる」 2001[図書文化社]より）

■展開例 私は面接官	
場面	展開の目標（意）と生徒の反応・行動（分）
インストラクション エンカウンター	●記入してきてもらった「私のPRカード」を出してください。 ●今日は面接を体験してもらいます。これから模擬面接を体験しようとする皆さんに、ぜひとも身につけてほしいことがあります。それは「自分を相手にわかりやすく伝える技術」です。 ●3人組になります。1人は面接役、あとの2人は面接官役です。面接官役の2人は、マナーや受け答え方に注目する人、質問をする人の役割を分担します。生徒役は廊下に出て、面接室への入室から選考までをきちんと行ってください。☆役割と順番を決める。 ●では、まず先生がやってみます。AさんとB君（読んでおいた生徒）が面接官役です。みんなは、①質問に答えられないとき、②言い間違えたとき、③答えている途中で詰まってしまったとき、こういうときの対処の方法に注目して行ってください。 ——面接がデモンストレーションを行う。 ☆うわー、あんなふうにはできないよ。☆貴重なりげな生徒。 ●先生は意識して、「私は」を主語にする答え方をしてみました。見ていてどんな感じがしましたか。——教名を替える。 ●面接の時間は1回につき5分です。5分たったら、面接官役の2人は協力して「アドバイスカード」に記入してください。生徒役だった人は、振り返り用紙に自己評価をします。 ●では、面接を始めます。ドアをノックするジェスチャーから始めてください。 →A・B・C ☆生徒役はドアを開けて入室し、それぞれの場所に着席する。 ●5分たちました。1回目の面接を終えてください。 ☆生徒役が廊下へ退出。すぐ順番に替る。 ●面接官はアドバイスカードに記入してください。時間は2分です。 ●やめ、それでは、役割を交代します。2回目の生徒役は廊下へ出てください。 ☆以下、同様に行います。
	●1人につき5分程度時間をとり、十分にしてもらう。
	●シェアリングの結果を、手紙を通じて紹介する。 ●1度だけでなく、生徒が技法を身につけるまで繰り返し行うとよい。
振り返り	●では、今日の学習の振り返りをします。アドバイスカードを本人に読んでください。それぞれの人のよかった点、改善点について、各組をしますから、5分くらいずつ話し合ってください。
	●まとめをします。面接のスキルアップの3要素です。①「伝えたい自分」を繰り返し頭の中で書くこと、②「私を主語にした言い方」を何度も何度も練習すること、③質疑（模擬）することをためらわないこと。この3要素をこれからの練習で身につけてほしいと願っています。 ●面接ワークシートを皆さんに渡します。質問に答えてください。次回の面接練習から使います。思ったことがあったら相談に乗りますから、安心してどんどん書き進めてください。みんなの疑問を答えています。

■ねらい

「自分の場を出しながら、伝えたい自分を伝える」という自己表現の技法を体験する。

私は面接官

佐藤健吉 wakoban

■キーワード（練習事項）

「私」を主語にした言い方、模範、ロールプレイ

■振り返り

●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。
●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。
●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。
●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。
●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。

■振り返り

●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。
●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。
●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。
●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。
●面接官役は、面接官役としての役割を十分に果たすことができたか。

(2) 実技研修

進路指導や教育相談について専門的な知識を得たり実践的なスキルを身につけたりするため、下記の研修に参加した。

【センター主催の研修】

- 5月13日(火) 小・中初任者研修「構成的グループエンカウンター講座」「教育相談の進め方」
- 7月 8日(火) 高等学校教職5年経験者研修オープンセミナー「高校生と高校教育の変容」
- 7月28日(月) オープンセミナー「総合的な学習の時間」
- 7月30日(水) ミンミンなかまづくりセミナー体験コース(寒河江市村山総合支庁西庁舎)
- 8月 1日(金) 小・中初任者研修「社会学からみた青少年問題」(天童市民文化会館)
- 8月7(木)・8日(金) ミンミンなかまづくりセミナー リーダー養成コース
- 9月10日(水) オープンセミナー「不登校についての理解と援助」
- 10月 7日(火) オープンセミナー「心を育てる道德教育」

【所外の研修】

- 5月24日(土) 不登校児童・生徒を持つ親の集い(山形市総合学習センター)
- 6月7(土)・8日(日) SGE進路指導ワークショップ(東京・ウェルサンピア多摩)
 - ・レクチャー(講師 國分久子氏)
 - ・エクササイズ「KJ法によるカード式職業興味探索」
 - 「PASカードによる面接指導」(ロールプレイ)
 - 「それってどんな自分？」
 - 「高校入学後の迷い」(ロールプレイ)
 - 「一人暮らしを考えよう」
 - 「迷える子羊の宝探し」
 - 「エニアグラム」
- 8月11(日)・12日(火) 第14回開善塾教育相談実技研修会
(東京・国立オリンピック記念青少年総合センター)
 - ・河合伊六氏(広島大学名誉教授)講演「不登校 再登校への支援」
 - ・布村幸彦氏(文部科学省)講演「教育改革の推進」
 - ・花輪敏男氏(国立特殊教育総合研究所)「ADHDの理解」
 - ・町沢静夫氏(精神科医)「今後の教育行政について」
 - ・丸山一座「即興劇による『虐待』」
 - ・選択演習「不登校への行動論的技法」「ロールプレイ」

(3) 調査研究

所属学年生徒の進路意識を他校との比較を通してとらえるために、県内公立高校5校に協力をいただき、進路指導主事への聞き取り調査と2学年生徒へのアンケート調査を行った。

対象：下記県内公立高校5校進路指導主事5名 および各校2年生 計約800人

県立村山農業高等学校	農業科学科	39名
	生物工学科	36名
	食品経済科	37名
	環境科学科	30名
県立置賜農業高等学校	農業科学科	約40名
	農業工学科	約40名
	生活情報科	約40名
	生活科学科	約40名
県立東根工業高等学校	機械システム科	約40名
	自動車工学科	約40名
	デザイン工学科	約40名
	生活クリエイト科	約40名
県立天童高等学校	総合学科	約200名
県立霞城学園高等学校	定時性普通科2年次在籍者	約120名

ア. 県内公立高校5校進路指導主事への聞き取り調査のまとめ

	栗立村山農業高等学校	栗立重福農業高等学校	栗立東根工業高等学校	栗立天童高等学校	栗立霞城学園高等学校
回答していただいた 進路指導主事名	阿部 仁先生	鈴木雄一郎先生	結城 衛先生	加藤 亨先生	吉田 洋先生
1 進路指導歴	進路指導部長歴：3年 担任としての指導歴：18年	進路指導部長歴：3年 HRでの指導歴：12年	平成3年より本校にて進路 指導を行っている。	進路指導部長歴：2年 学年主任等の業務を通して の進路指導は5年目	進路指導部長歴： 今年度4月から 進路指導部にはこれまで 合計7年所属
2 回答校の大まかな 進路指導年間計画	1年：自己理解 （性格検査等） 2年：啓発的体験 （産業現場実習） 3年：意志決定 （面接指導等）	1年：自己理解 2年：啓発的体験 （インターンシップ） 3年：意志決定 （面接指導等）	1年：自己理解 2年：啓発的体験 （インターンシップ） 3年：意志決定 （面接指導等）	1年次を「基礎力充実期」 2年次を「伸張期」 3年次を「完成期」 と意義付けて進路学習を 行っている。	学校の性質上、学年単位での計画 を立てにくいので、3年間の流れ の中で個人の状況に応じた形の指 導を行うことが多い。
3 回答校の去年の 卒業生の進路状況	約140名のうち 約90名が就職 約50名が進学 うち若干名が4年制大学へ 進学	約150名のうち 約100名が就職 約50名が進学 うち若干名が4年制大学へ 進学	約200名のうち 約110名が就職 約90名が進学 うち約1割が4年制大学へ進 学	約200名のうち 就職者、 4大または短大進学者、 専門学校進学者の割合がそ れぞれ約3割であった。	部卒業生40名のうち、 4年制大学進学者6人 専門学校進学者9人 その他18人
4 主な 進路指導学習の 特色・ 成果・ 問題点	特色： 民間企業の考えを知るた め、保護者による面接指導 を行っている。 履歴書は必ず自分で会社 にもたせて挨拶させている。 成果： は生徒の意識付けに有効 である。 問題点： 教師の熱意が企業や生徒に うまく伝わらないときもあり 残念に思う。	特色： 学科ごとにバックアップさ れた取り組み 成果： 農業体験学習を多く取り入 れており、生徒の動労意欲 は高いと感じている。また 生徒の希望する職種が多様 なため指導しやすいと感じ ている。 問題点： 基礎学力の育成	特色： 2年次のインターンシッ プ、 LHRでの進路学習 成果： 学科の特色を活かしたイン ターンシップ学習を行うこ とにより、仕事に対する意 識や挨拶の態度が向上する 生徒も多い。 問題点： ここ数年求人数が激減しつ つあり、進路学習のありが たさを改めて問い直している 状況にある。インターン シップに関しては事前指導 の仕方や受け入れ先の開拓 が今後の課題となっている。	特色： 総合学科の必修科目である 「産業社会と人間」（1年 生全員履修）の学習を通じ て系統だった進路指導を 行っている。 成果： 「自分を見つめる上で非常 に有効だった」「2年でも 継続して勉強したい」等の 声や感想が生徒から多数寄 せられている。 問題点： 教科書のない科目なので、 準備や実行に非常に時間が かかる。	特色： 総合学習の時間を大いに活用した 進路指導への取り組み 成果： 担任の個別指導が非常に活かされ る。 問題点： 一般の学校と違い、放課後などを 利用した一斉指導が行いにくい。
5 生徒の進路意識 について日頃感 じていること	ここ数年フリーター志向 の生徒が増えている傾向 にある。また目的意識が 曖昧な生徒も以前より増 加している。	日頃の指導によりフリー ター志向者は少ない。た だ、希望職種が少ないた めにやむを得ず一時雇用の 形をとる生徒もいるた め、そのような生徒へは 別の形で指導を行っている。 進路意識の育成のため、 1年生1学期の指導は 非常に重要視している。	ここ数年フリーター志向 の生徒が増えている傾向に あるが、粘り強く目的の進路 を求める「善玉フリーター 志向者」と、生き方あり方 の定まらない「悪玉フリー ター志向者」に2分されて いるように感じる。後者へ の指導は難しく、担任の協 力を得て無理のない形の進 路選択を指導している。	進路指導を徹底させてい るため、フリーター意識の ある生徒はいない。また、 「総合学科」の特性として 常に幅広い視野が要求され るためか、生徒の自己責任 能力は非常に高いといえる と感じている。さらに、職 員・保護者双方の触発によ り、高い進路意識を持つ生 徒が多いと思われる。	一般社会での経験があつた り、目的意識のある生徒は非 常に向上心が強い。しかしそ うでない生徒については進路 に関する意識が十分に育つて いない面もあり、意識変革の 必要性を感じている。
6 地域性と地域に 期待すること	通学生の学区が幅広いた め、就職開拓の可能性が広 がることを期待している。	地元志向の強い生徒が多 いため、地域雇用協議会等 での官民一体となった活動 の推進を今後も期待してい る。	工業団地の多い地域であり、 市内唯一の公立高校であるこ とから企業や市に協力いた だくことが多いので、今後も開 拓を大切にしていきたいと 考えている。	総合学科の設置により、通学圏 が広まってきている中で、市内 唯一の県立高校という認識が市 全体にますます高まることを期 待している。	生涯学習の場として非常に恵まれた 環境であると感じている。まだ利点 をいかにきいていない面も見られ るので、今後期待している。
7 保護者に 期待すること	保護者会等での呼びかけ に答えてくれる協力的保 護者が多く助かっている。 就職をめくってのトラ ブルが生じたことも あったので、今後そのよ うなことが起こらないこ とを期待している。	家庭での親子の会話を深 めてほしいと考えてい る。	学校で教えられない「生 き様」について生徒に広 く示していただくことを 期待している。	高校生活の3本柱は「勉 強」「部活」「進路」であ ると考えているが、高校生 の保護者にはそのうち「進 路」について特に関わって もらえることを期待してい る。例えば進路についての 思い等をどんだん子どもに 質問する、といったことを 心がけて実行してもらえ ばと思う。	本校生の保護者に限らず、親 子の会話を多く持つてもらえ ればと考えている。
8 その他	高校進路指導に期待する こととしては、生徒に 「進路決定＝自分の生活 設計」ということを強く 認識してもらいたい。そ れと同時に教師も一層の 熱意をもって生徒に答え ていくべきと思っている。	今、高校での進路指導は 出口指導に重点がおかれ ている傾向にあるが、入 り口指導に力を入れるこ とが結果的によりよい進 路指導に結びつくと思 っている。もちろん実質的 な出口指導は大切だが、 「教育の成果は10年後 にでる」という言葉を大 切にして指導に望みた い。	アンケートの設定には進 路についての意識が鋭く 問われるものもあるよう に思ったので、集計の結 果に興味を感じている。 今後の高校生の就職には 困難な状況を感じてお り、日本経済の早期復旧 に期待している。	一人一人の生徒がより高 い目標を持って進路達成 するために、今以上に人 生について深く考えても らえることを願ってい る。また、進路達成の支援と して、生徒にとって最も 適したシステムや支援と は何かについて、教師は 常に考えていかなければ ならないと感じている。	現在の高校進路指導では、4年制 大学希望者の指導に比べ、専門学 校希望者への指導がおざりにな りがちな傾向にあるように感じて いる。例えば、専門学校のガイ ダンスなどは業者まかせだったり、 生徒の希望を100%受けて進学 されることも少なくない。しかし 生徒の将来のためには、本人に とって本当に適した学校とはどう いうところなのか、はっきりとし た根拠をもって指導にあたって いく必要を感じている。

【所感】

同じ県立高校でも地域や学科の違い等によって進路指導の仕方に様々な特徴があることを改めて実感した。聞き取り調査を行った高校には本校以外に2つの職業高校があつたので、比較する上で大変興味深く感じた。また、霞城学園高校の吉田先生から定時制高校の進路指導のご苦労を伺ったことで、多様化する進路指導について大いに考えさせられた。なお、お忙しいにもかかわらずお答えくださったことには本当に感謝し、生徒の進路に深くかかわるために、教師も生徒とともに歩む姿勢をこのように大切にしていかなければならないと痛感させられた。
ご協力いただいた先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

イ. 県内公立高校5校2年生へのアンケート調査結果による進路意識の分析と考察

県立村山農業高等学校第2学年へのアンケート結果（平成15年6月18日水曜日実施）

質問番号	実施人数122人（在籍142人 公欠・欠席・無効計20人）	質問の観点	M1	M2	M3	M4	結果の検証から
			とても当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	全く当てはまらない	
1	私は近い将来の見通しを持つことで生活に張りが出ている。	明確な進路計画を持っているか	12	38	50	22	近い将来の見通しによって生活に張りを持つ生徒は少ない。
2	私は自分なりの未来設計図を持っている。		23	36	49	14	
3	私は進路のことを考えるとあせったり不安になったりする。	進路について迷いや不安はないか	28	52	26	16	進路についての迷いや不安が多い。また、進路についてよく考えている。
4	私は進路のことを考えると混乱したり迷ったりする。		23	53	24	22	
5	私は進路について考えることがよくある。		29	54	30	9	
6	私は進路希望先の説明会や見学にもう行っている。	進路情報を積極的に得ようとしているか	5	4	20	93	啓発的体験のない生徒が多い。情報量も不足している。
7	私は希望する進路先の学校や職業について情報を集めている。		14	20	37	51	
8	私は進路の選択は自分の問題であると自覚している。	進路の自己決定能力は高いか	54	50	13	5	進路選択を自分の生き方の問題と認識・自覚している。ただし気持ちや思いを言葉で表現することはやや難しく思っている。
9	私は進路の選択は自分の生き方の選択であると実感している。		41	57	19	5	
10	私は仕事をやる意義や目的について自分の考えを言える。		19	29	60	14	
11	私は進路に関する思いや気持ちを親しい友人と話している。	進路について他の人と話したり相談できる環境にあるか	21	35	44	22	家族と進路について割合話している。また、進路についていろいろな人の気持ちや考えを聞きたいと考えている。
12	私は進路に関する思いや気持ちを家族と話している。		29	43	34	16	
13	私は進路に関して他の人の気持ちや考えを聞くためになると思う。		32	46	33	11	
14	私は「性格検査」「適性検査」などの結果を自己理解に活用している。	適性について自己理解に努めているか	18	47	38	19	職業学習を通しての自己理解があまりできていないと考える生徒が多い。
15	私は様々な職業の性質や特徴を調べることで自分自身が見えてきている。		13	31	62	16	
16	私は自分の長所や特徴を分かっている。	進路選択をするうえで自己を客観的に見つめようとしているか	23	45	39	15	自分の長所や特徴の生かし方があまり分からない生徒が多い。
17	私は自分の長所や特徴の生かし方を分かっている。		9	23	64	25	
18	私は職業に対する自分の向き・不向きをわかっている。		29	40	45	7	
19	私は働く上で自分が重視したい労働条件がはっきりしている。	労働条件や価値観は確立しているか	18	36	49	18	今回の結果では検証できない。
20	私は働く上で自分が重視したい欲求や価値観がはっきりしている。		24	35	47	15	

は(M1+M2) : (M3+M4)を比較した場合の直立確立計算(1×2)による検証の結果有意性が見られた箇所

県立東根工業高等学校第2学年へのアンケート結果（平成15年7月実施）

質問番号	実施人数196人（うち無効7人）	質問の観点	H1	H2	H3	H4	結果の検証から
			とても当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	全く当てはまらない	
1	私は近い将来の見通しを持つことで生活に張りが出ている。	明確な進路計画を持っているか	11	76	71	30	今回の結果では検証できない。
2	私は自分なりの未来設計図を持っている。		25	76	62	25	
3	私は進路のことを考えるとあせったり不安になったりする。	進路について迷いや不安はないか	59	70	35	24	進路についての迷いや不安が多い。また、進路についてよく考えている。
4	私は進路のことを考えると混乱したり迷ったりする。		47	65	48	28	
5	私は進路について考えることがよくある。		63	75	37	13	
6	私は進路希望先の説明会や見学にもう行っている。	進路情報を積極的に得ようとしているか	9	3	32	144	啓発的体験のない生徒が多い。情報量も不足している。
7	私は希望する進路先の学校や職業について情報を集めている。		22	31	55	80	
8	私は進路の選択は自分の問題であると自覚している。	進路の自己決定能力は高いか	95	80	12	1	進路選択を自分の生き方の問題と認識・自覚している。ただし気持ちや思いを言葉で表現することはやや難しく思っている。
9	私は進路の選択は自分の生き方の選択であると実感している。		76	78	25	8	
10	私は仕事をやる意義や目的について自分の考えを言える。		23	58	84	22	
11	私は進路に関する思いや気持ちを親しい友人と話している。	進路について他の人と話したり相談できる環境にあるか	30	63	59	35	家族と進路について割合話している。また、進路についていろいろな人の気持ちや考えを聞きたいと考えている。
12	私は進路に関する思いや気持ちを家族と話している。		34	82	50	21	
13	私は進路に関して他の人の気持ちや考えを聞くためになると思う。		56	91	29	11	
14	私は「性格検査」「適性検査」などの結果を自己理解に活用している。	適性について自己理解に努めているか	15	59	80	33	職業学習を通しての自己理解があまりできていないと考える生徒が多い。
15	私は様々な職業の性質や特徴を調べることで自分自身が見えてきている。		7	39	99	42	
16	私は自分の長所や特徴を分かっている。	進路選択をするうえで自己を客観的に見つめようとしているか	37	61	71	18	自分の長所や特徴の生かし方があまり分からない生徒が多い。しかし職業適性について自己理解している生徒は多い。
17	私は自分の長所や特徴の生かし方を分かっている。		16	40	92	39	
18	私は職業に対する自分の向き・不向きをわかっている。		34	87	53	13	
19	私は働く上で自分が重視したい労働条件がはっきりしている。	労働条件や価値観は確立しているか	19	54	81	33	重視したい労働条件が分からない生徒が多い。
20	私は働く上で自分が重視したい欲求や価値観がはっきりしている。		30	72	70	15	

は(M1+M2) : (M3+M4)を比較した場合の直立確立計算(1×2)による検証の結果有意性が見られた箇所

県立霞城学園高等学校第2学年（定時制普通科）へのアンケート結果（平成15年7月実施）

質問番号	実施人数 67人(うち無効4人)	質問の観点	K1	K2	K3	K4	結果の検証から
			とても当てはまる	どちらかといえは当てはまる	どちらかといえは当てはまらない	全く当てはまらない	
1	私は近い将来の見通しを持つことで生活に張りが出ている。	明確な進路計画を持っているか	10	20	18	15	今回の結果では検証できない。
2	私は自分なりの未来設計図を持っている。		17	21	16	9	
3	私は進路のことを考えるとあせったり不安になったりする。	進路について迷いや不安はないか	19	22	8	14	進路についてのあせりや不安が多い。また、進路についてよく考えている。
4	私は進路のことを考えると混乱したり迷ったりする。		11	22	14	16	
5	私は進路について考えることがよくある。		18	26	11	8	
6	私は進路希望先の説明会や見学にもう行っている。	進路情報を積極的に得ようとしているか	3	6	11	43	啓発的体験のない生徒が多い。情報量も不足している。
7	私は希望する進路先の学校や職業について情報を集めている。		7	17	16	23	
8	私は進路の選択は自分の問題であると自覚している。	進路の自己決定能力は高いか	32	24	4	3	進路選択を自分の生き方の問題と認識・自覚している。また、仕事をする意義や目的について自分の考えを言葉で表現できると考える生徒が多い。
9	私は進路の選択は自分の生き方の選択であると実感している。		32	17	11	3	
10	私は仕事をする意義や目的について自分の考えを言える。		17	22	18	6	
11	私は進路に関する思いや気持ちを親しい友人と話している。	進路について他の人と話したり相談できる環境にあるか	9	17	25	12	今回の結果では検証できない。
12	私は進路に関する思いや気持ちを家族と話している。		11	25	20	7	
13	私は進路に関して他の人の気持ちや考えを聞くためになると思う。		18	16	19	10	
14	私は「性格検査」「適性検査」などの結果を自己理解に活用している。	適性について自己理解に努めているか	12	17	22	12	今回の結果では検証できない。
15	私は様々な職業の性質や特徴を調べることで自分自身が見えてきている。		7	20	24	12	
16	私は自分の長所や特徴を分かっている。	進路選択をするうえで自己を客観的に見つめようとしているか	17	23	17	6	自分の長所や特徴を述べることができる生徒が多いが、生かし方が分からないと考える生徒が多い。また、職業適性について自己理解している生徒が多い。
17	私は自分の長所や特徴の生かし方を分かっている。		11	18	24	10	
18	私は職業に対する自分の向き・不向きをわかっている。		15	25	17	6	
19	私は働く上で自分が重視したい労働条件がはっきりしている。	労働条件や価値観は確立しているか	15	18	21	9	働く上で重視したい欲求や価値観が明確な生徒が多い。
20	私は働く上で自分が重視したい欲求や価値観がはっきりしている。		19	20	21	3	

は(M1 + M2) : (M3 + M4)を比較した場合の直立確立計算(1 × 2)による検証の結果有意性が見られた箇所

県立置賜農業高等学校第2学年へのアンケート結果（平成15年7月実施）

質問番号	実施人数 140人(うち無効22人)	質問の観点	01	02	03	04	結果の検証から
			とても当てはまる	どちらかといえは当てはまる	どちらかといえは当てはまらない	全く当てはまらない	
1	私は近い将来の見通しを持つことで生活に張りが出ている。	明確な進路計画を持っているか	5	44	58	11	近い将来の見通しによって生活に張りを持つ生徒は少ない。
2	私は自分なりの未来設計図を持っている。		14	50	42	12	
3	私は進路のことを考えるとあせったり不安になったりする。	進路について迷いや不安はないか	35	42	28	13	進路についての迷いや不安が多い。また、進路についてよく考えている。
4	私は進路のことを考えると混乱したり迷ったりする。		26	43	36	13	
5	私は進路について考えることがよくある。		39	36	42	1	
6	私は進路希望先の説明会や見学にもう行っている。	進路情報を積極的に得ようとしているか	7	7	34	70	啓発的体験のない生徒が多い。情報量も不足している。
7	私は希望する進路先の学校や職業について情報を集めている。		9	34	42	33	
8	私は進路の選択は自分の問題であると自覚している。	進路の自己決定能力は高いか	52	53	8	5	進路選択を自分の生き方の問題と認識・自覚している。
9	私は進路の選択は自分の生き方の選択であると実感している。		40	56	19	3	
10	私は仕事をする意義や目的について自分の考えを言える。		11	45	54	8	
11	私は進路に関する思いや気持ちを親しい友人と話している。	進路について他の人と話したり相談できる環境にあるか	22	41	42	13	また、進路についているいる人の気持ちや考えを聞きたいと考えている。
12	私は進路に関する思いや気持ちを家族と話している。		29	37	38	14	
13	私は進路に関して他の人の気持ちや考えを聞くためになると思う。		29	64	21	4	
14	私は「性格検査」「適性検査」などの結果を自己理解に活用している。	適性について自己理解に努めているか	12	33	51	22	職業学習を通しての自己理解があまりできていないと考える生徒が多い。
15	私は様々な職業の性質や特徴を調べることで自分自身が見えてきている。		5	34	59	20	
16	私は自分の長所や特徴を分かっている。	進路選択をするうえで自己を客観的に見つめようとしているか	18	44	40	16	自分の長所や特徴の生かし方があまり分からない生徒が多い。
17	私は自分の長所や特徴の生かし方を分かっている。		7	24	62	25	
18	私は職業に対する自分の向き・不向きをわかっている。		20	40	46	12	
19	私は働く上で自分が重視したい労働条件がはっきりしている。	労働条件や価値観は確立しているか	16	36	48	17	今回の結果では検証できない。
20	私は働く上で自分が重視したい欲求や価値観がはっきりしている。		19	39	50	10	

は(M1 + M2) : (M3 + M4)を比較した場合の直立確立計算(1 × 2)による検証の結果有意性が見られた箇所

県立天童高等学校第2学年へのアンケート結果（平成15年7月実施）

質問番号	実施人数191人(うち無効10人)	質問の観点	T1	T2	T3	T4	結果の検証から
			とても当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	全く当てはまらない	
1	私は近い将来の見通しを持つことで生活に張りが出ている。	明確な進路計画を持っているか	7	83	87	24	自分なりの未来設計図を持っている生徒が多い。
2	私は自分なりの未来設計図を持っている。		43	79	36	23	
3	私は進路のことを考えるとあせったり不安になったりする。	進路について迷いや不安はないか	86	63	21	11	進路について特にあせりや不安を持つ生徒が多い。進路についてはよく考えている。
4	私は進路のことを考えると混乱したり迷ったりする。		64	72	34	11	
5	私は進路について考えることがよくある。		66	75	31	9	
6	私は進路希望先の説明会や見学にもう行っている。	進路情報を積極的に得ようとしているか	13	18	45	105	啓発的体験のない生徒が多い。
7	私は希望する進路先の学校や職業について情報を集めている。		34	55	59	33	
8	私は進路の選択は自分の問題であると自覚している。	進路の自己決定能力は高いか	87	78	11	5	進路選択を自分の生き方の問題と認識・自覚している。
9	私は進路の選択は自分の生き方の選択であると実感している。		76	75	26	4	
10	私は仕事をする意義や目的について自分の考えを言える。		25	59	78	19	
11	私は進路に関する思いや気持ちを親しい友人と話している。		50	76	38	17	
12	私は進路に関する思いや気持ちを家族と話している。	進路について他の人と話したり相談できる環境にあるか	54	64	46	17	家族や友人と進路について割合話している。また、進路についている人の気持ちを聞きたいと考えている。
13	私は進路に関して他の人の気持ちや考えを聞くためになると思う。		63	83	27	8	
14	私は「性格検査」「適性検査」などの結果を自己理解に活用している。		20	57	69	35	
15	私は様々な職業の性質や特徴を調べることで自分自身が見えてきている。	適性について自己理解に努めているか	8	52	87	34	職業学習を通しての自己理解があまりできていないと考える生徒が多い。
16	私は自分の長所や特徴を分かっている。		23	71	68	19	
17	私は自分の長所や特徴の生かし方を分かっている。		10	37	92	42	
18	私は職業に対する自分の向き・不向きをわかっている。		29	73	63	16	
19	私は働く上で自分が重視したい労働条件がはっきりしている。	労働条件や価値観は確立しているか	23	52	86	20	重視したい労働条件が分からない生徒が多い。
20	私は働く上で自分が重視したい欲求や価値観がはっきりしている。		37	65	67	12	

は(M1 + M2) : (M3 + M4)を比較した場合の直立確立計算(1 × 2)による検証の結果有意性の見られた箇所

県立高校2年生(4校)へのアンケート調査結果と所属学年生徒(村山農業高等学校)の結果の比較

質問番号	実施人数672人 (男子369人 女子303人)	質問の観点	村農	置農	東工	天童	霞城
1	私は近い将来の見通しを持つことで生活に張りが出ている。	明確な進路計画を持っているか					
2	私は自分なりの未来設計図を持っている。						
3	私は進路のことを考えるとあせったり不安になったりする。	進路について迷いや不安はないか					
4	私は進路のことを考えると混乱したり迷ったりする。						
5	私は進路について考えることがよくある。						
6	私は進路希望先の説明会や見学にもう行っている。	進路情報を積極的に得ようとしているか					
7	私は希望する進路先の学校や職業について情報を集めている。						
8	私は進路の選択は自分の問題であると自覚している。	進路の自己決定能力は高いか					
9	私は進路の選択は自分の生き方の選択であると実感している。						
10	私は仕事をする意義や目的について自分の考えを言える。						
11	私は進路に関する思いや気持ちを親しい友人と話している。						
12	私は進路に関する思いや気持ちを家族と話している。	進路について他の人と話したり相談できる環境にあるか					
13	私は進路に関して他の人の気持ちや考えを聞くためになると思う。						
14	私は「性格検査」「適性検査」などの結果を自己理解に活用している。						
15	私は様々な職業の性質や特徴を調べることで自分自身が見えてきている。	適性について自己理解に努めているか					
16	私は自分の長所や特徴を分かっている。						
17	私は自分の長所や特徴の生かし方を分かっている。						
18	私は職業に対する自分の向き・不向きをわかっている。						
19	私は働く上で自分が重視したい労働条件がはっきりしている。	労働条件や価値観は確立しているか					
20	私は働く上で自分が重視したい欲求や価値観がはっきりしている。						

当てはまる

当てはまらない

優位性の検定には直接確率計算(1 × 2)を用いた。

【結果】

(1) 全体的な傾向として、高校 2 年生の 1 学期において、多数の生徒に次のことが当てはまると言える。

- ア．進路問題を自分の生き方の問題として自覚している。
- イ．進路に関して他の人の考えを聞くことはためになると思っている。
- ウ．進路についての悩みや不安が多い。
- エ．進路情報の集め方が分からない等の理由から、進路情報が不十分である。
- オ．長所や性格の生かし方がよく分からない。
- カ．啓発的体験に乏しい。

(2) 所属学年生徒と他校生の結果を比較した場合、所属学年生徒の進路意識には次のような特徴があると考えられる。

- ア．項目 1 により、他校生よりも将来の見通しを持つことによって生活に張りを持つ生徒は少ない。
- イ．項目 1 4 により、他校生よりも自己理解に関する検査の結果を活用している可能性がある。

(3) 自由記述欄に記入された表現の中で特に多かったのは次の項目である。

項目	例
自己理解に関すること	「自分の長所や適性が分からない」 「向いている仕事を知りたい」
将来の見通しに関すること	「まだ希望進路が決まってなくて不安だ」 「何がやりたいのかよく分からない」
情報収集に関すること	「進路情報をもっと提供してほしい」 「進路情報の集め方が分からない」

【まとめと考察】

(1) 上記の自由記述から、進路の不安を解消していくためには、自己理解を促進させたり進路適性について考えるための支援が必要と思われる。また、進路情報に関する情報提供を増やしていく必要は大きいと思われる。

(2) 上記(1)～(4)から、今後の進路指導を充実させるための支援として、次のようなことを意識していく必要があると考えられる。

生徒のニーズを知り、それに応える努力をする。現状におけるニーズとしては、進路情報提供(例：進路指導室だけでなく教室へも資料を整備し、利用しやすい環境をつくる)の充実等が考えられる。

他校で実践されている「産業社会と人間」の通年実施や学科の特色を生かしたインターンシップを参考にすることにより、将来の見通しを持たせることや職業に対する自覚を高めることに効果が期待できる部分もあると思われる。

進路に対する不安やあせりが強い傾向は今後も続くと思われるため、進路相談を充実させていく必要があると考えられる。生徒の実態を考え、本当に生徒の立場にたった相談活動を行うためには、「自己理解(適性理解含む)」「職業理解」「啓発的体験」の3点に関する進路学習を1、2年次に積極的に取り入れ、キャリア・アンカーについて考える機会を多く持たせることが大切になると思われる。

特に「啓発的体験」は進路意識向上と個々の生活向上の絶好の機会であるため、活動終了とともに学習を終わらせるのではなく、時代のニーズを考慮したソーシャルスキルトレーニング学習を行ったり、SGEによるシェアリングを事後指導に行ったりするなどの工夫をこれまで以上に行っていく必要があると考える。

ウ. 所属学年生徒の実態と所属学年教師の予想する実態との比較と考察

所属学年生徒の実態と教師の考えている実態を比較し、意識の差を見ることで現状の進路指導の問題点や改善の方向性について明らかにしたいと考えたので、下記のアンケート調査を行った。

M1～M4の単位は%。()内の数字は学年所属教師群(以下「教師」と記す)の予想数値平均。

比較の差が20%以上見られた項目については、 で示した。

質問番号	質問項目	質問の観点	M1	M2	M3	M4	比較から
			とても当てはまる(%)	どちらかといえば当てはまる(%)	どちらかといえば当てはまらない(%)	全く当てはまらない(%)	
1	私は近い将来の見通しを持つことで生活に張りが出ている。	明確な進路計画を持っているか	10(13)	31(29)	41(43)	22(15)	差はそれほど見られない。
2	私は自分なりの未来設計図を持っている。		19(14)	30(26)	40(43)	11(17)	
3	私は進路のことを考えるとあせったり不安になったりする。	進路について迷いや不安はないか	23(12)	43(27)	21(44)	13(17)	教師は「生徒はあまりあせりや不安を感じていない」と考えている傾向にあるが、生徒は教師の予想以上に進路について考えたり悩んだりしている。
4	私は進路のことを考えると混乱したり迷ったりする。		19(26)	43(35)	20(27)	18(12)	
5	私は進路について考えることがよくある。		24(24)	44(24)	25(33)	7(19)	
6	私は進路希望先の説明会や見学にもう行っている。	進路情報を積極的に得ようとしているか	4(13)	3(12)	16(20)	77(55)	教師は生徒の7割は希望進路先の見学等をしていると考えているが、実際は7割以上が全くしていない。
7	私は希望する進路先の学校や職業について情報を集めている。		11(13)	16(19)	30(36)	43(32)	
8	私は進路の選択は自分の問題であると自覚している。	進路の自己決定能力は高いか	44(28)	41(29)	11(33)	4(10)	教師は「生徒は進路に対する自覚があまりない」と考える傾向にあるが、生徒は教師の予想以上に自覚を持っている。
9	私は進路の選択は自分の生き方の選択であると実感している。		34(22)	44(26)	16(36)	4(16)	
10	私は仕事をする意義や目的について自分の考えを言える。		16(10)	24(18)	49(52)	11(20)	
11	私は進路に関する思いや気持ちを親しい友人と話している。	進路について他の人と話したり相談できる環境にあるか	17(27)	29(31)	36(23)	18(19)	差はそれほど見られないが、親しい友人と進路について話すことについては教師の予想よりも低い傾向にある。
12	私は進路に関する思いや気持ちを家族と話している。		24(20)	35(29)	28(35)	13(16)	
13	私は進路に関して他の人の気持ちや考えを聞くためになると思う。		26(26)	38(29)	27(33)	9(12)	
14	私は「性格検査」「適性検査」などの結果を自己理解に活用している。	適性について自己理解に努めているか	14(16)	39(20)	31(43)	16(21)	差はあまり見られないが、項目17については自己理解がややできていないと考える生徒も多い。
15	私は様々な職業の性質や特徴を調べることで自分自身が見えてきている。		11(23)	25(27)	51(34)	13(16)	
16	私は自分の長所や特徴を分かっている。	進路選択をするうえで自己を客観的に見つめようとしているか	19(14)	37(25)	32(43)	12(18)	教師は「生徒は適性の活用の仕方をまあまあわかっている」と考えている傾向にあるが、実際は「わかる」と答えているのはわずか7%である。
17	私は自分の長所や特徴の生かし方を分かっている。		7(25)	19(31)	53(29)	21(14)	
18	私は職業に対する自分の向き・不向きを分かっている。		24(19)	33(29)	37(29)	6(14)	
19	私は働く上で自分が重視したい労働条件がはっきりしている。	労働条件や価値観は確立しているか	15(19)	30(29)	40(33)	15(14)	差はあまり見られない。
20	私は働く上で自分が重視したい欲求や価値観がはっきりしている。		20(17)	29(26)	39(40)	12(17)	

【結果】

- (1) 項目 3、4、5 から、教師の予想以上に、所属学年生徒（以下「生徒」と記す）は進路について考えたり悩んだりしている傾向にある。
- (2) 項目 6、7 から、生徒は教師が予想するほど啓発的体験等に参加していない。
- (3) 項目 17 から、教師の予想と異なり、生徒は職業適性の生かし方が分からない傾向にある。

【まとめと考察】

- (1) 教師が考える以上に生徒は進路に対する自覚や関心があるが、考える以上に不安やあせりも大きい。普段の学校生活でそれを見抜くのが難しいのは、生徒が集団の中で人間関係に気を使ったり、集団の雰囲気流されたりすることも多いからではないかと考えられる。2 年のうちに無理のない形で SGE を取り入れた進路学習を LHR に取り入れたり、個別に進路相談を行ったりして「生徒と生徒」「生徒と先生」相互の関わりを増やすなどの支援を行えば、安心して本音を語れる進路環境が整備されていくと思われる。
- (2) 教師がさかんに奨励しているにも関わらず、啓発的体験への参加をためらったり、乗り気になれないまま長期休業を過ごしたりする生徒は少なくない。これについては、教師自身も生徒とともに進路指導室に足を運んで相談にのるなどの具体的なアクションを起こすことで解決できる部分もあると思われる。以前啓発的体験の参加を考えているという生徒から相談を受けたとき、「仲のよい友人を伴って教師と一緒に進路指導室に行き」「一緒に参考資料に目を通し」「一緒に 具体的交通手段 参加日時 質問項目 を確認し」「友人にも一緒に行ってもらおうようお願いし」「参加後に友人とともにできる『お楽しみ』をつくる」といった支援を行ったところ、実際に参加できた例もある。
- (3) 啓発的体験の一環として、身近な社会人や卒業生から経験談を聞く機会を持つことも進路意識を向上させる手段として有効ではないかと考えられる。現在所属校では「先輩の話聞く会」「外部講師（村山市近辺の企業関係者）による進路講話」等が毎年実施されているので、それを生かすような形で事前・事後指導を工夫し、学科や学級による方策を立てていくといった支援を行ってみることも今後必要ではないかと思われる。
- (4) 教師が考える以上に生徒は自分の長所や適性に関する自己理解がない傾向にある。この分野の解決は SGE が最も得意とするものであり、エクササイズを工夫することで仲間づくりを行いながらキャリア・アンカーを考えることも可能である。よって学級の実態等に応じて、適切な時期に適切な形で SGE を取り入れることは、生徒にとって望ましい支援の一つになると思われる。

(4) 実践研究

SGE の考えや技法を取り入れた授業を実践し、結果を検証するために、下記の通り研究授業を実施した。

実施場所：県立村山農業高等学校

対象生徒：県立村山農業高等学校 食品経済科 第2学年3組生徒37名

授業日時：平成15年7月10日(木) 4時間目(11:55~12:45)

” 11日(金) 2時間目(9:55~10:45)

授業者 : MT 小山和彦教諭(第2学年3組担任)

ST 山口恵子教諭(県教育センター長期研修生)



(ア) 授業者としての反省

一日目は時間を気にするあまり MT,ST とともにペースが速くなり、キャリア・アンカーを考えさせていくための発問や説明があっさりと終わってしまった。

生徒の使用する「職業カード」とパワーポイントの画面表示が完全に同じ形になっていなかったため、生徒が作業を行う際戸惑いを覚えた場面があった。

一日目は MT,ST とともに自己開示の場面がないままに終わってしまった。二日目は MT,ST 双方の自己開示があったことにより、本音を語り合える雰囲気生まれ、シェアリングが活発化した。

「学習カード(次頁参照)」の領域の分け方に誤りがあった。また、カードにはキャリア・アンカーを記入するスペースを明示したほうがよかった。

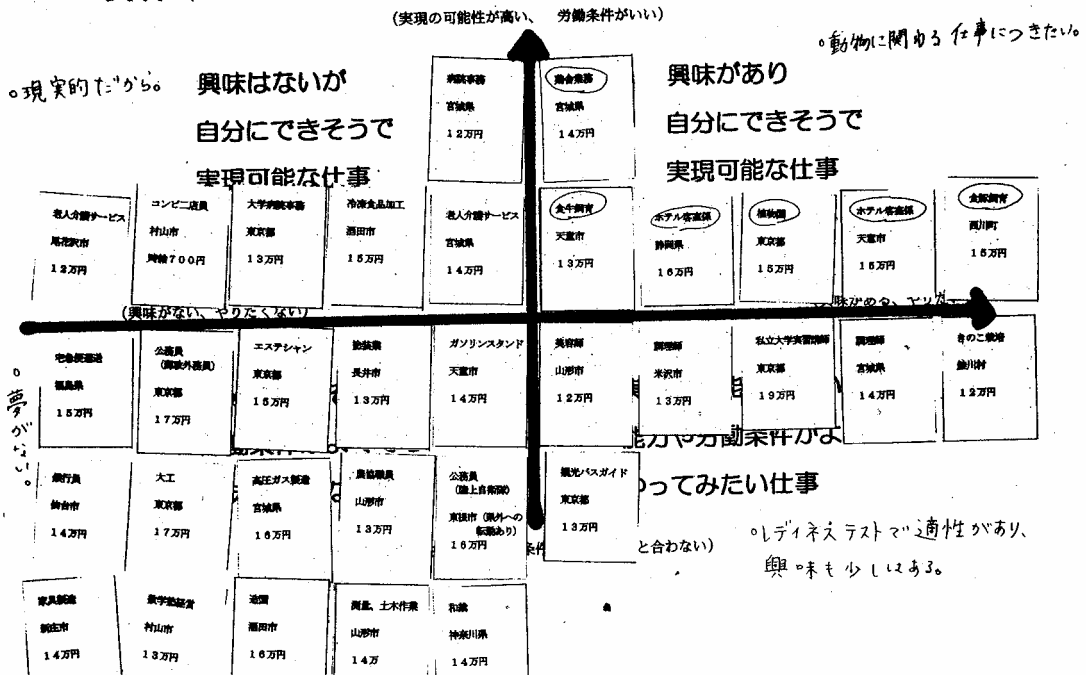
SGE の際、手元にプリントを置いてそれを見ながら発表している生徒が殆どだったため、声が小さくなり話が聞き取りにくく感じられた。発表の仕方などのモデリングをもっと生徒の活動に即した正確な形で行うべきであった。

上記の反省をもとに、改善を加えた本授業の学習指導案を「進路学習活動アイデア案」に掲載した。

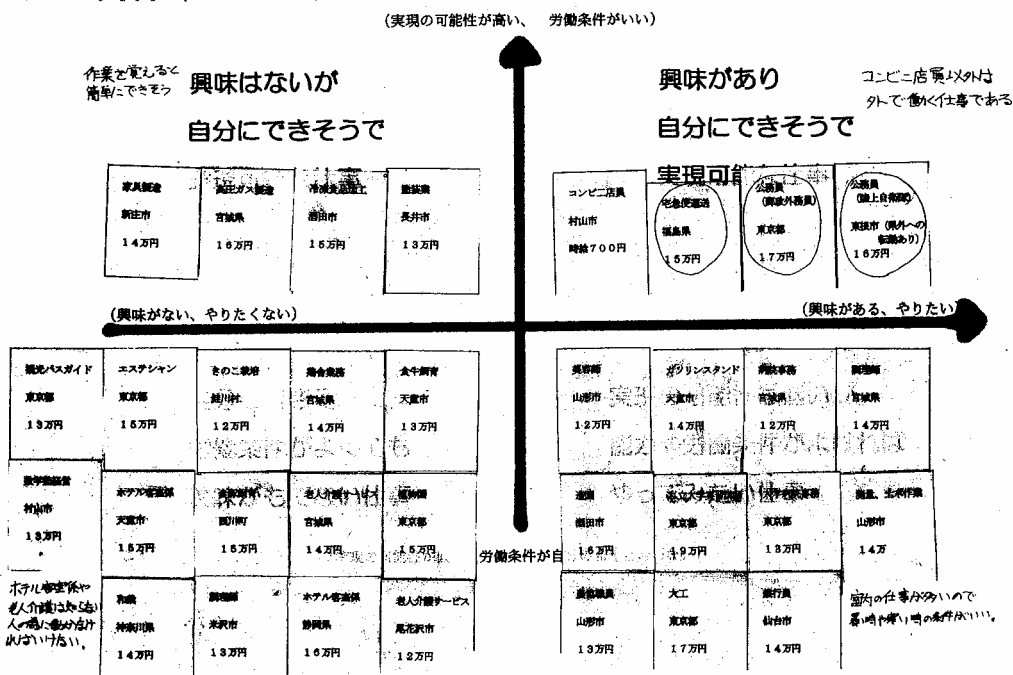
(イ) 学習カードに記載されたキャリア・アンカーの分析から

【生徒が記入した学習カードの例】

氏名 ()



氏名 ()



ウ．研究授業後のアンケートの結果と考察

【アンケートの集計結果】

	質問項目	「そう思う」 「少しそう思う」と 答えた生徒の数	「そう思わない」 「あまりそう思わない」と 答えた生徒の数
1	私はこの学習を行ったことで、職業に対する自分の向き・不向きが前より分かるようになった。	36	1
2	私は今回の学習を行ったことで、進路に対する不安やあせりが減った。	27	11
3	私は今回の学習を行ったことで、具体的に進路について考えたいという気持ちが強まった。	37	0
4	私はこの学習を行ったことで、積極的に進路情報を集めたいという気持ちが強まった。	36	1

【自由記述の内容の分類から】

主な内容	記述した 生徒の数	記述例
「友達の励ましやアドバイスに喜びや自信を感じた」	28	「やりたい仕事に向いていると言われ嬉しかった」「不安が自信に変わった」等
「自己理解や適性理解が深まった」	18	「希望進路は本当に自分にあっているか前よりわかるようになった」等
「進路を積極的に考えてみたい」	12	「進路指導室に行ってみようと思う」「計画的に進路を考えなくなった」等
「友達にアドバイスや思いを伝えられたことに喜びを感じた」	2	「友達にアドバイスできてよかった」「思いを伝えることは自分の自信につながった」等
その他	6	「(SGE は) 恥ずかしかった」「あせってきた」等

【まとめと考察】

アンケートの結果から、今回の授業は

「進路適性の理解」(項目1から)」

「進路に対する不安の軽減(項目2から)」

「進路に対する意欲の喚起(項目3から)」

「積極的な進路情報意欲の喚起(項目4から)」

の4点について、職業についての興味・関心・適性に関する意識を深めることに効果が見られた。

今回の学習におけるSGEによる効果は大きかったと考えられるため、本学級においては今後も適切な形でSGEを取り入れながら進路指導を行うことで、さらに人間関係が向上し、進路意識にも好影響があるのではないかと考えられる。

7. 今後の課題

実践研修については、学年の4学科のうち1学科でしか研究授業が行うことができなかつたので、学科間の違いを比較検討できなかつた。また、授業数も2時間と少なかつたので、今後、生徒の実態にあったエクササイズについて実践し、検証を行っていききたい。

いわゆる「出口指導」にあたる実践指導についての経験や知識の不足を補っていききたい。

所属学年生徒は来年3年生になるため、「方策の施行」「適応指導」についても今後研究を深めたい。

8 . 主な参考文献一覧

- 片野智治編集代表「エンカウンターで進路指導が変わる」 2001（図書文化社）
- 木村 周「キャリア・カウンセリング - 理論と実際 その今日的意義 - 」1997（社団法人雇用問題研究会）
- 厚生労働省職業安定局監修「職業ハンドブック CD-ROM 検索システム Ver.1.1」1998（日本労働研究機構）
- 國分康孝監修「エンカウンターで学級が変わる 高等学校編」1999（図書文化社）
- 國分康孝編集代表「進路指導と育てるカウンセリング」 1998（図書文化社）
- 実務教育出版発行「進路ジャーナル 5月号」2003
- 日本進路指導協会発行「進路指導 5月号」2003
- 文部省「学校における教育相談の考え方・進め方 中学校・高等学校編」1990
- 文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 中間まとめ」2003
- 吉田辰夫「21世紀の進路指導辞典」2001（ブレーン出版）
- リクルート社発行「リクルートキャリアガイダンス Vol.6」2003

【参考ホームページ】

- 文部科学省(<http://www.mext.go.jp/>)
- 日本進路指導学会(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssc/>)
- 日本進路指導協会(<http://www.7.ocn.ne.jp/~shinro/>)
- 全国高等学校進路指導協議会(<http://www.mmjp.or.zenkousin/>)
- JavaScript-STAR(<http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star>)

9 . 終わりに

長期研修を終えるにあたり、今回の貴重な研修の機会を与えてくださった山形県教育委員会の皆様、山形県教育センター野口所長はじめ諸先生方に心より感謝申し上げます。とりわけ、お忙しい中懇切丁寧に御指導・御助言くださいました西村仁美先生に心より御礼申し上げます。また、長期研修生担当の官宏先生、加藤勝徳先生、研修生活を温かく見守ってくださいました山家教育相談部長をはじめ教育相談部の先生方、視聴覚機器操作に関して丁寧に御指導くださいました大津情報教育部長はじめ情報教育部の先生方、アイデア集作成に際し御協力くださいました高橋良治先生、統計処理について丁寧に御指導くださいました小山田正幸先生にも厚く御礼申し上げます。

さらに、聞き取り調査に際して御協力いただきました県立置賜農業高校の鈴木雄一郎先生、県立東根工業高校の結城衛先生、県立天童高校の加藤亨先生、県立霞城学園高校の吉田洋先生、そしてアンケート調査実施にご協力くださいました上記各校第2学年の先生方にも、心より御礼申し上げます。

最後になりますが、今回快く研修に出してくださいました県立村山農業高校の長谷川肇先生をはじめ諸先生方の温かいご支援に、厚く御礼申し上げます。